

自動化による生産性の向上と付加価値向上 各工程のプロセスの積極的な改善

同社は1947年7月に静岡市で鋳前製造業として創業し、1972年12月に法人組織に改め、山梨金属工業株式会社を設立した。金型設計開発からプレス加工までの一貫生産対応により量産加工が可能であり、生産工程の改善にも積極的に取り組んでいる。また、金型については、社内試作を積極的に行う等の取組みが、同社のプレス加工技術の確立に大きく寄与した。更に、2010年10月にインドネシアに現地法人を設立する等、海外進出も強化している。

- 所在地 静岡県藤枝市横内800-20
- 電話/FAX 054-641-8474/054-641-9347
- URL <http://yamanashimetal.com/>
- 代表者 代表取締役社長 山梨 潔昭

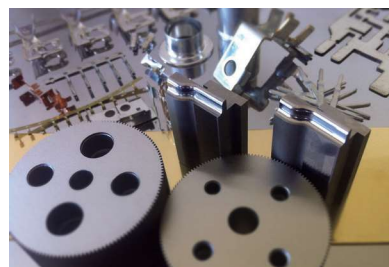
- 設立 1947年
- 資本金 1,000万円
- 従業員数 59人



生産性向上

自動化による生産性の向上と付加価値向上

同社は金型設計開発を自社内で行うとともに製品の品質向上、付加価値向上に積極的に取り組む。製品の重要機能部位の全数保証を行うため、画像装置を導入し、自動検出を可能とし、品質向上と付加価値向上に努めた。また、プレス加工の工程で発生した端材の自動回収装置を導入する等、設備投資に力を注いでいる。更に、生産加工品の自動設備の設計開発、作製販売を新規事業として取り組む事で、より一層の付加価値の向上を図っている。



品質・付加価値が高い同社の金属製品

各工程のプロセスの積極的な改善により、納期短縮を実現

金型納期短縮、精度向上、再現性の確立を目指し、非接触式3次元自動測定器を導入したことで、約75%の時間削減を達成した。これにより、金型内駒数が100点程度の金型の場合、約18時間の測定時間が短縮でき、納期短縮に寄与した。また、自動機を導入し、53%程度だった作業効率を100%まで引上げることに成功。これにより、国内で1次加工した後、インドネシアで最終加工をした製品の価格が現地加工のみの製品の価格帯にも対抗でき、かつ良質な製品の提供を可能としている。



設備投資により納期短縮を実現

作業標準化と多能工化による人材活用

従業員教育の一環として量産品製造部門における作業標準書の整備を通じ、作業全般の標準化を積極的に進めている。技術部門では、標準化が可能な作業については作業標準を整備し、標準化が困難な作業においてはOJTを中心とした教育計画を作成し、従業員に対し定期的な研修を実施している。また、技術部門では社内にて製品、金型の両試作に取り組むことで、従業員の製品開発能力、設計能力の向上に努めている。作業の標準化を図ることで、他部門への弾力的なシフト等の多能工化を実現した。



作業標準化による多能工化

ものづくり